

短期間での歯科診療所退職の理由に関する質的分析

板 家 朗 鬼 塚 千 絵
永 松 浩 木 尾 哲 朗

抄録：本研究は歯科医師の生涯学習教育に活用することを目的に、歯科医師が勤務先を短期間で退職した経緯の分析を行った。臨床研修修了後に勤務した歯科診療所を短期間で退職した歯科医師に対して、退職に至った経緯について半構造化インタビューを行い、Steps for Coding and Theorizationを用いて分析した。その結果、就職を決めた理由と退職した理由を得た。就職を決めた理由は「開業するための学びを得るため」であり、退職した理由は「将来の不安」「院長への不満」「臨床での葛藤」であった。また二度目の就職先を決めるにあたって自身を振り返っていたことがわかった。今後、歯学部学生や研修歯科医に対してのキャリア教育を行う際の参考になると考えられる。

キーワード：キャリア教育 就職 退職 質的研究

緒 言

米国内科学会と欧州内科学会が合同で発表した医師憲章¹⁾において、医師は「生涯にわたり学習し続けねばならず、質の高い医療を供給するために必要な医学知識、臨床的技術を維持する責務を有する」とされている。さらに医師全体として、「個々の医師すべてが有能であるように努め、また有能となるための適切な仕組みを作らねばならない」としている。それゆえ研修歯科医教育を担う指導歯科医は、単なる就職斡旋に留まらない継続的なキャリア支援や、キャリアの中断を防ぐための指導や教育が要求される。

医療職のキャリアデザインに関しては、看護分野で新人看護師の離職についての研究が行われている²⁾。歯科の分野ではこれまでキャリアデザインからみた歯科医師臨床研修のアウトカム評価³⁾やキャリア教育と研修歯科医の将来設計の関係⁴⁾については報告されているが歯科医師のキャリアの中断や退職に至った事象に関しては報告されていない。しかしながら何らかの事情で研修修了後の就職先を短期間で退職する歯科医師は一定数存在すると考えられる。一方で退職に至った背景や個人情報の点から調査自体が難しく人数や状況は明らかになっていない。

そこで本研究では、研修歯科医のキャリア形成やキャリア中断を防ぐ指導や教育に活用することを目的として、就職時と退職時のモチベーションの変容を明らかにするために、臨床研修修了後の歯科医師が勤務先を短期間で退職した経緯の分析を行なった。

対象および方法

1. 対象

本研究では歯科医師臨床研修修了後の初めての就職先を短期間で退職した歯科医師1名を対象とした。対象は、男性歯科医師1名で、臨床研修修了後に初めて勤務したA歯科医院を1週間で辞めており、その2か月後に別のB歯科医院に就職した。A歯科医院は個人経営で、B歯科医院は法人経営であった。どちらの歯科医院も対象者以外の常勤歯科医師は院長のみであった。

2. データの収集

本研究では就職先を短期間で退職した歯科医師1名を対象とした。インタビューは臨床研修修了から16か月後に実施した。インタビュー形式は半構造化インタビューで、「はじめにA歯科医院を選んだ理由」、「退職に至った経緯」、「次にB歯科医院を選んだ理由」を質問項目として設定した。インタビューの状況を録画し、この動画を用いて逐語録(テキスト)を作成した。本研究は九州歯科大学研究倫理委員会の承認を受けた上で実施した。(承認番号14-65)。対象者には、研究目的を口頭および書面にて説明した上で、同意を得た。またインタビューは、プライバシーの守られた個室で、対象者と利害関係のない面接者によって行なわれた。

3. データの分析

データの分析にはSCAT (Steps for Coding and Theorization)⁵⁾を用いた。SCATは、大谷によって開発され、明示的な手続きで小規模のデータにも適用可